

心を繋ぐ6ペンス (1967)

HALF A SIXPENCE

メディア 映画

ジャンル ミュージカル

製作国 イギリス

色彩 Color

時間 143分

初公開日 1968/07/20

公開情報 P A R

【解説】

H・G・ウェルズの自伝的小説『キップス』の舞台ミュージカルの映画版で、作詞・作曲はD・ヘネカー、主役は舞台同様、元ロカビリー歌手だったT・スティール。孤児院出身の少年アーサーが、幼い愛を誓ったアンと別れてロンドンに発つ際に、彼女から6ペンス銀貨を二つに割ったものを、その証として貰う。仕立屋勤めの彼は、やがて上流のお屋敷のメイドとして働くようになったアンと再会、旧交を温める。店に自転車で飛び込んだ役者兼劇作家のハリーの働く劇場に連れていかれ、祖父が彼あてに巨額の遺産を残したーという記事を新聞で読んだと聞かされ、有頂天。そこで歌い踊る“バンジョーをかき鳴らせ”が本編の白眉で、いくら金持ちになっても、バンジョーさえあればーと歌う調子のよいナンバーで、カラフルで幻想的な場面といい、最高である。そして、彼は憧れの社交界入りを果たし、ボート・レースでもかつての職場の仲間を破り、貴族の娘ヘレンとの婚約が決まるが、そのお披露目に集まった人々の取り澄ました態度にうんざりし、その場でメイドをしていたアンをさらって彼女と結婚。ところが、身についたにわか贅沢がなかなか抜けず、新妻とは仲違いばかり。ところが、全財産の運営を任せていたヘレンの兄が焦げつきを出し、アーサーは破産。しかし、やっと自由な気持ちに戻れ、ハリーが芝居を当てて持って駆けつけた配当金で、ささやかな家を持つというアンにニッコリ微笑み返すアーサーだった。全体にミンストレル調の曲に傑出したものは少ないが、女流のギリアン・リンの振り付けが伸びやかで素晴らしく、特に海水浴場や雨の公園など、屋外での群舞は、J・アンスワースのカメラも生き生きとして実に楽しい。今世紀初頭の風俗の再現も華やかでござげんだ。

【クレジット】

監督	ジョージ・シドニー	George Sidney	
製作	ジョージ・シドニー	George Sidney	
	チャールズ・H・シニア	Charles H. Schneer	
製作総指揮	ジョン・ダーク	John Dark	
原作	H・G・ウェルズ	H.G. Wells	
脚本	ビヴァリー・クロス	Beverley Cross	
撮影	ジェフリー・アンスワース	Geoffrey Unsworth	
音楽	デヴィッド・ヘネカー	David Heneker	
	アーウィン・コスタル	Irwin Kostal	
出演	トミー・スティール	Tommy Steele	アーサー・キップス
	ジュリア・フォスター	Julia Foster	アン
	ペネロープ・ホーナー	Penelope Horner	ヘレン
	パメラ・ブラウン	Pamela Brown	ウォルシンガム夫人
	グローヴァー・デイル	Grover Dale	ピアース
	シリル・リチャード	Cyril Ritchard	ハリー・チッターロウ

エレイン・テイラー	Elaine Taylor	ヴィクトリア
ヒルトン・エドワーズ	Hilton Edwards	シャルフォード
ジュリア・サットン	Julia Sutton	フロー
ジェームズ・ヴィリアーズ	James Villiers	ヒュバート
クリストファー・サンドフォード	Christopher Sandford	シド
ジーン・アンダーソン	Jean Anderson	
アラン・カスバートソン	Allan Cuthbertson	